



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—162 2024. 5. 1

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp
連絡先：鹿児島市鴨池新町 5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

「不断努力」ということ

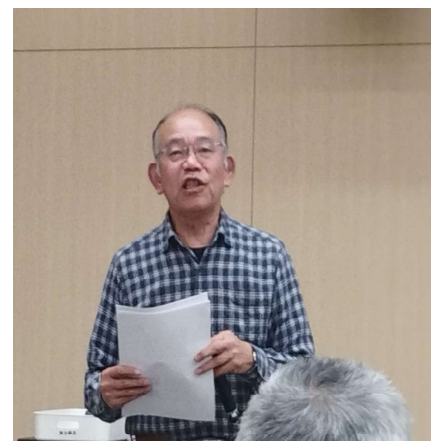
代表 下馬場学

鹿児島市議会選挙が実施され新たな議員が多く誕生した。市民中心の市政を二元代表制の一翼を担う立場として頑張っている。自民党の得票率が下がったことは当然の結果であるが、「選挙の時ばかり」の声は耳に痛い。日頃から政治を話題にしているだろうか？

同じようなことを沖永良部島の日米合同軍事訓練「アイアン・フィスト(鉄の拳)」の監視行動の時も感じた。「中国がああいう風だからこの訓練はありがたい」という声。「徹底した話し合い・外交が大切」というわたしたちの主張に対し「中国や『北朝鮮』は話しても通じらん」という返事。果たして、これまでの自公政権は仮想敵国としている中国と話し合ってきたか。「平和的統一を望む。独立を強行すれば軍事的手段も放棄しない」という中国の主張と先の総統選挙にみられる「独立ではなく現状維持」を望む台湾住民の意思。この実態を隠しながら「台湾有事は日本有事」と繰り返す政府と軍事国家を目指す勢力。今回の岸田首相の訪米は自衛隊が米軍の指揮下のはいることを、進んで認めるためのものだった。これらの状況を国民が共有し・覆す「不断努力」をわたしたちはやってきたのか。

さつま町で弾薬庫建設計画が進んでいる。「厳しいわが国をめぐる安全保障状況」そうか？地元住民不在のまま一部の人々が政府に請願し調査が始まる。これがわが国の民主主義

か。佐賀県玄海町議会の原子力特別委員会は高レベル放射性廃棄物(核のごみ)の最終処分場をめぐり、処分場選定の第1



段階となる文献調査を求める請願を採択した(「調査はするが最終処分場はいらない」という賛成した議員の声は理解できないが)。住民には全く諮られていない。山口県上関町では中間使用済み核燃料を保管する「中間貯蔵施設」建設予定地のボーリング調査が始められた。上関原発建設を阻止してきた地だ。ここでも住民の声は無視されている。

憲法前文の「主権が国民に存する」ことの意味を改めて問い直さなければならない。川内原発 20 年運転延長を問う条例制定を求める昨年の運動は主権者としての声だった。県下各地からも「9 の日行動」が報告されている。志布志からは「とりくみの後の語らいが楽しい」という報告もある。「裏金」でスポンサーしか向いていない自民党政治に厳しく対峙しながら、子どもや孫たちに残したい社会・国を楽しい「不断努力」で創っていきたい。

被災 70 周年 3.1 ビキニ・デー全国集会 報告**磨島 昭広**

「ビキニ・デー」とは、アメリカが 1954 年 3 月 1 日未明、太平洋ビキニ環礁で、広島型原爆の約 1000 倍の威力をもつ水爆（ブラボー）実験をおこない、この核実験によって、マーシャル諸島の人びとや多くの日本漁船などが被災しました。静岡県焼津のマグロはえ縄漁船「第五福龍丸」は、アメリカの指定した危険区域外での操業中に“死の灰”を浴び、23 人の乗組員全員が急性放射能症にかかり、無線長の久保山愛吉さん（当時 40 歳）は「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」と言い残して、亡くなりました。

この 3・1 ビキニ事件は、日本国民に大きな衝撃をあたえ、広島・長崎をくりかえさせないため、全国に原水爆禁止の運動が広がり、3 千数百万筆の原水爆禁止署名が集まり、1955 年 8 月に第 1 回の原水爆禁止世界大会が開かれました。原水爆禁止日本国民会議（以降、原水禁）の運動は、核実験反対と核兵器廃絶・被爆者の救援にとどまらず、いまでは原子力の「平和利用」を含めた「核」に反対し、結成時の故森滝市郎原水禁議長の「核と人類は共存できない」を合言葉に、人間と「核」が絶対に相容れないものであるという立場に立ち、核兵器であれ、原子力であれ、原水禁はすべての「核」を完全に否定しています。今年で被災から 70 周年を迎えた、2024 年 3.1 ビキニデー全国集会は、3 月 1 日の夕方 18 時から静岡市商工会議所ホールで開催しました。



はじめに、藤本泰成・原水禁共同議長が「ウクライナ・パレスチナをみれば『核抑止』が幻想であり、むしろ侵略戦争の推進力となっていることを指摘。核軍縮のプロセスの機能不全のなか、核兵器禁止条約（TPNW）への期待が高まっているいっぽうで、戦争被爆国日本が果たすべき役割から背を向けているとし、ビキニ被災 70 年の節目を迎えたいま、変わらないこの世界を変えるために原水禁としていっそう核廃絶にとりくんでいく」と、あいさつしました。次に、開催地を代表し、静岡県平和・国民運動センターの福井淳会長があいさつのあと、長崎大学核兵器廃絶研究センターの中村桂子・准教授の「核兵器廃絶に向けた世界の動きと私たちの課題」と題した、講演を受けました。講演では、2023 年 6 月現在、世界に核弾頭は 1 万 2520 発存在していること、冷戦期以降数は減少してきたものの高性能化がすすんでいること、核軍拡の状況を呈していることや膠着した厳しい現実があるいっぽうで、核軍縮をめざす「新しい風」のきざしがあること、その大きな原動力としての核兵器禁止条約（TPNW）が持つ意味について解説し「核兵器は持続的な未来をもたらさうるものなのか、根源的に考え直す絶好のチャンスです」と述べました。次に、TPNW 第 2 回締約国会議派遣報告、次に、ビキニ市民ネット焼津・かまぼこ屋根の会の秋山博子さん、杉本智子さんが、第五福龍丸の漁労長・見崎吉男さん（2016 年逝去）の想いを背負ってマーシャル諸島を訪れ、核被害の調査と現地の人びととの交流を行った際の映像を上映、最後に、静岡選出の高校生平和大使（第 26 代）の中野愛子さん、渡邊楓花さん、東井上遥華さんが、静岡におけるとりくみ報告とそれぞれの核兵器廃絶に向けた思いを述べ、全国から約 180 人が参加し集会は終了しました。

核燃サイクルの輪は途切れている！増え続ける核のゴミ

～第 39 回 4・9 反核燃の日全国集会参加して～

退教協 上猶 寛

4 月 9 日を「反核燃の日」と、どれだけの人が知っているだろうか？1985 年 4 月 9 日、青森県の北村知事が、県民の声を無視して県議会全員協議会で核燃 3 セット（ウラン濃縮工場・低レベル放射性廃棄物一時貯蔵施設・再処理施設）の受け入れを表明したことに由来している。

4 月 6 日から第 39 回 4・9 反核燃の日全国集会



会は、例年であれば、寒風吹き荒ぶ屋外開催だったそうだが、今回は、

リンクステーションホール青森の屋内開催だった。集会では各団体からの挨拶や基調報告に続き、集会アピール採択のあと県庁までのデモ行進。そして、原子力資料情報室などからの報告を聞いた。

報告の中で印象に残ったことを 3 点。1 点目は、原子力規制庁が創設されてから 10 年たった 2012 年 7 月以降は、規制庁幹部が全て、経産省出身となったことである。「原子力政策を規制する」ために創立された原子力規制庁幹部が、全て「原子力政策を推進する」省庁の出身者となり、わたしたちが知らないうちに、「規制」が形骸化されていたというわけだ。

2 点目は、六ヶ所村の再処理工場は、1993 年 4 月 28 日に着工し、4 年後に完成するはずだった。それが「六ヶ所村の再処理工場は、2024 年 9 月竣工を目指す」に変わってしまっていることである。これまでに、26 回も着工延期となっている上に、2023 年 3 月に提出された「建設及び工事の許可審査資料」約 6 万ページの中に、間違いが 3100 ページもあり、今年の 9 月には修正が間に合わず、27 回目の延期となると予想されているそうだ。

3 点目は、能登半島に関する北野さんの報告。

震災後の隆起した海岸などの写真や能登半島周辺の活断層など豊富な資料が示された。日本中どこでも原発のあるところでは原子力と地震の複合災害が起こると避難計画が全く機能しないこと改めて感じた。

翌 7 日は、集会のあった青森市から六ヶ所村へ。約 1 時間かけて貸切バスで移動し、集会とデモ行進に参加した。六ヶ所村は、自衛隊三沢基地が近くにあり、原燃施設上空を自衛隊機などが飛行することがあること。六ヶ所村を含む周辺の地域は、大きな工業地域となる計画だったと聞いた。

六ヶ所村に行ったのは初めて、印象は、役場も含めて公共施設は、どれも立派で、交付金を利用し



たものとすぐにわかった。街を行き交う人は少なく「アトムちゃん」の看板を掲げたお店を見て、複雑な気持ちになった。デモ行進の後、六ヶ所村原燃 PR センターを見学した。核エネルギーの未来や再処理施設、最終処分など PR されていたが、破綻した再処理技術や確定していない最終処分地など全く触れていなかった。六ヶ所村までの車窓から見たあちこちに見える太陽光パネルと、六ヶ所村原燃 PR センターから見えた遠くの風力発電の風車と石油備蓄タンク、そして廃棄物再処理施設は、国のエネルギー政策に翻弄され続けている六ヶ所村を表しているように見えた。



3.20「さようなら原発」全国集会 報告

磨島 昭広

2023 年に亡くなった、作家の大江健三郎さん、音楽家の坂本龍一さんらが呼びかけた「さようなら原発」全国集会は 3 月 20 日、東京・代々木公園で開催され、全国から約 6000 人が参加しました。新型コロナウイルスの感染が拡大した 2020 年春以降「首都圏集会」開催は規模を縮小してきたため「全国集会」は約 3 年ぶりの開催となりました。

開会前の一時的な強い風と雨が降る中、司会のピースボート・畠山澄子さんが、なかなかテレビに出ない「松元ヒロ」さんを紹介し、麻生太郎のモノマネや「トリチウムの半減期は 12 年ですよ」など、汚染水についての知識も織り交ぜながらの風刺コントでオープニングをかざり、雨中のステージ前は笑いの渦に包まれました。

集会は主催者あいさつに続き、福島原発事故を風化させないために全港湾と全日建の青年部を中心に結成された「フクシマ連帯キャラバン隊」は、16 日の福島集会からスタートしてフィールドワークや茨城県水戸市の東海村など、各自治体への要請行動を行いながら代々木集会に合流し「原発をなくすまで、この集会を続けましょう」と元気よく呼びかけました。

次に「これ以上海を汚すな！市民会議」の片岡輝美さんが、福島県議会『教育現場における ALPS 処理水の理解醸成に向けた取組の更なる強化を求める意見書』が自民党議員により採択された問題を、次に「女川原発の再稼働を



許さないみやぎアクション」の多々良哲さんが、東北電力の女川原発 2 号機の 6 月再稼働についての報告を、次に、東海村村議の阿部功志さんが、1 月の村議会選挙の結果、脱原発首長会の村上前村長の娘さんがトップ当選したことを報告し「自民党は反社会的勢力に成り下がっている。岸田政権を倒しましょう」と訴え、次に「志賀原発を廃炉に！訴訟原告団」の北野進さんが「元旦の地震で能登の風景は一変し、私たちの暮らしも大きく変わりました。かつての珠洲原発予定地の中部電力の寺家では 1 m の、関西電力の高屋では 2 m の隆起が確認されました。珠洲原発が出来ていたら家屋は倒壊し、道路は寸断され、津波被害で奥能登は孤立し、被曝に晒されていたと思います。今回の地震からの復興に向けた全国の皆さんからの応援に感謝します。今後は、志賀原発を廃炉に追い込む「全国集会」を、震災から半年後の 6 月か 7 月に開催したいと考えています」と報告し、能登半島地震被害への全国からの応援と激励への感謝と共に、今後の決意を語りました。最後に、大江さんと一緒に呼びかけ人となった、ルポライターの鎌田慧さんが「大江さん、坂本さん、瀬戸内さんが亡くなりました。これまで頑張ってきて 13 年が経ちましたが、いまだに原発は存在します。私たちは原発廃炉、脱原発、20 年延長運転反対の声をあきらめずに上げていきましょう」と、力を込めて訴えました。

集会後、参加者は渋谷・原宿の 2 コースに分かれて、デモ行進しました。

